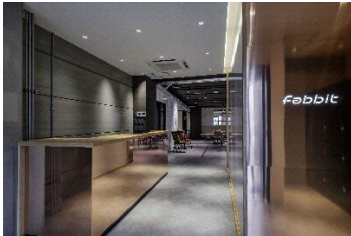


【令和2年度 第3回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」】

令和2年度第3回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」を、2020年にOPENした「fabbit 宗像」にて12月18日（金）に開催しました。

なお、当日はソーシャルディスタンス確保のため、会場でのご参加は講演者ならび関係者のみとさせて頂き、その他参加希望者には会場の様子をオンライン配信致しました。

少しでも「むな BIZ」の様子をお伝え出来るよう、レポートをお届け致します。



会場：fabbit 宗像 1



会場：fabbit 宗像 2

「fabbit 宗像」・・・スタートアップ企業支援／コワーキングスペース等を備えた施設。宗像市、宗像市商工会、および fabbit にて「創業支援事業に関する連携協定」を締結し、宗像市発の地方創生実現を目指しています。

URL (<https://fabbit.co.jp/facility/munakata/>)

【第3回テーマは「体験型観光で地域を元気に！～ウィズコロナ時代における観光戦略の考察～」】

毎回「むな BIZ」では各回で流行のビジネステーマを設定し、講演やパネルディスカッション、交流会を実施しています。令和2年度第3回は、コロナの影響を大きく受けている観光産業にスポットを当て、そこに携わる経営者2名の方をお招きし、ウィズコロナ禍における観光戦略等について講演・パネルディスカッションを行って頂きました。

冒頭、司会を務められた fabbit 宗像ゼネラルマネージャー・田嶋啓氏は、2020年は新型コロナウイルスに翻弄された1年であり、特にサービス業における影響は甚大である、今回の事例講演はあらゆる業種で商機を見い出すヒントになると述べられました。

また、第1回「むな BIZ」でもモデレーターを務められた日本を代表するエンジェル投資家であるボードウォーク・キャピタル株式会社の代表取締役社長・那珂通雅氏に昨今の国内外経済情勢についてお話頂きました。その中でコロナ禍の日本企業と GAFAM（ガーファム）の時価総額や在宅勤務の普及を例にアメリカとの差について触れ、国際的に活躍している那珂氏だからこそのお話を聞くことが出来ました。

「GAFAM」とは・・・アメリカの巨大IT企業5社（Google、Apple、Facebook、Amazon、Microsoft）の頭文字を取った呼び名。



司会・田嶋氏



モデレーター・那珂氏



那珂氏 登壇風景

<事例講演① 三浦 和道 氏（株式会社ポケットカルチャー エグゼクティブパートナー）>

事例講演お1人目は、東京の飲食・エンターテインメント業界にて長年にわたり事業開発や新規出店・ブランディングの責任者を歴任されている株式会社ポケットカルチャーのエグゼクティブパートナー・三浦和道氏です。三浦氏は一般的な観光ツアーとは一線を画すヘリやセスナの搭乗体験、大使館訪問、夜の工場訪問、シニアビューティー体験など次々とヒット商品を打ち出されており、今回は「こんなことが観光資源に?!～身近なコンテンツの発掘と磨き上げ事例～」と題して様々な事例をご紹介頂きました。

「ポケットカルチャー」では非日常ではなく新日常を提案するために、3つの演出（特別感・限定感・割安感）と7つのキーワード（安全・安心・知的・快適・楽しい・美しい・美味しい）にこだわっており、商品に合わせて効果的な広告媒体を選択し、シニア向けの場合は3密対策を強調表示するなどの工夫をされているとの事です。しかし、コロナの影響やGO TOキャンペーン停止によりイベント売上が大幅に減少したことで、観光産業だけでなく、テイクアウトデリバリー・モバイルバッテリーの代理店などに参画するなど様々な試みをされています。また、地方創生に関わる愛知県豊田市、大阪府河内長野市などのツアー受託や、宗像市では「大島」「宗像大社」を巡るツアー企画、珍しいものとしてはバラエティー番組の公開録画見学、50歳以上限定の「大人の合コン」などの事例をご紹介いただき、自分磨きをするための美容体験やシャンソン体験教室なども非常にニーズがあるとお話しくれました。消費者が求める「ダサくない田舎っぽさ」を意識し、商品を企画されているとのことでした。

後半では宗像市の課題として自然を活用したアウトドアレジャーや体験教室などのアクティビティ数、ジャンルが少ない点を挙げ、宗像市ならではの海や歴史的観光地と「#宗像エール飯」を組み合わせた『宗像エール旅』という旅行企画についてご提案頂き締め括られました。

株式会社ポケットカルチャー URL (<https://www.poke.co.jp/>)



三浦氏 登壇風景 1



三浦氏 登壇風景 2

「#宗像エール飯」とは・・・宗像市内飲食店等を支援するためにテイクアウトやデリバリーサービスを行っている（行う予定）の飲食店等の情報を取りまとめ、HPやSNS等で周知・発信。

<事例講演② 山下 直人 氏（合同会社渡海屋 共同創業者）>

次にご登壇された山下直人氏は、宗像市ご出身で企業に属し、全国各地のチームマネジメントに従事されるとともに、福岡テンジン大学や大ナゴヤ大学で運営スタッフ・授業コーディネーターを務められ、2020年には地元宗像の宝で世界遺産である「宗像大島」の振興のために島づくり合同会社「渡海屋」を共同創業されました。そんな宗像愛あふれる山下氏は「離島・大島は日本の縮図、日本は世界の縮図～渡海屋の挑戦～」と題して創業1年目にコロナ禍を迎える「渡海屋」の事業や挑戦についてご講演くださいました。

地元宗像の地域創生のため「渡海屋」は山下氏を含めた4人で創業され、世界遺産・沖ノ島に一番近い宿「MINAWA」の運営や空き家再生、サウナを活用した旅行企画、ペットフードなどの地域特産品開発など大島だけでなく、沖ノ島、宗像のブランド力向上に向け、現在進行形で数多くの取り組みを行われています。そして、大島の人口は現在約600人、高齢化率も高く、人口減少・高齢化が進む日本、また世界の縮図を表していると危機感を持ち、打開するために日々精力的に活動されています。加えてウィズコロナという新たな時代を乗り越えるために当たり前と思っていた事を見直し、「第二島民 PROJECT」と銘打った事業で大島に人を呼びこむため今後も挑戦を続けていくと力強

く語って下さいました。

合同会社渡海屋 URL (<http://tokaiya.site/>)



山下氏 登壇風景 1



山下氏 登壇風景 2

<ディスカッション>

事例講演後、モデレーターの那珂氏、登壇頂いた三浦氏、山下氏に、「渡海屋」の共同創業者である谷口竜平氏と糀屋総一郎氏を加えた5名によるディスカッションが行われました。テーマは「ウィズコロナ時代の新たな観光戦略」。ウィズコロナが否応なしにビジネスのあり方を変えるきっかけとなったとし、三浦氏は実感している旅行業界の危機や現状について、糀屋氏はピンチであると同時に一致団結するきっかけや新たなチャンスでもあると話されました。

また、本来多くの観光客が見込まれていた東京オリンピックの開催不透明について、三浦氏はこれからマーケットを自身で作る、いかにそこに地域性を混ぜて差別化を図れるかが大切な時代になっていくと語られました。次に那珂氏はピンチがチャンスとなった事例として飲食店をサポートするクラウドファンディングが圧倒的に増え成功したと紹介し、デザイナーをされている谷口氏は仕事がなくなると焦っていた際に新たに動画制作を始めたところ新たな仕事依頼が来たという実体験について、三浦氏はコロナ禍の旅行業界においても50代以上の合コン企画など需要が全く落ちない商品があり、いかにブラッシュアップして継続していくか考えているというお話がございました。

そして、ディスカッション後半では視聴者からのリアルタイムな質問があり、「今後の新しいビジネスは？」という質問に対しては、売れ行きが良い体験型や着地型観光の企画を考えていきたいと三浦氏が答えられました。最後に那珂氏は「fabbit 宗像」という場所や「むな BIZ」のイベント、宗像を盛り上げたいという思いが地域創生に繋がっていくと結びました。



谷口氏



糀屋氏



トークセッション風景

令和2年度第3回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」は、コロナ禍で多大な影響を受けている観光をテーマに事例講演とディスカッションが行われました。登壇された皆様からはポジティブな事例や意見をたくさん聞くことが出来、イベントの中でもお話が出ましたが、宗像が誇る自然・世界遺産と地元の食やその他事業が組み合わせることで独自の魅力が生まれ、地域活性化に繋がる事に期待したいです。それでは、次回の「むな BIZ」もお楽しみに。

fabbit 宗像 むな BIZ レポーター